

平成 30 年度国地方創生推進交付金活用事業の評価について

1 国地方創生推進交付金とは

- ・地方創生推進交付金は、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応として、「希望を生み出す強い経済」を実現するため、また、「子育て支援」や「安心につながる社会保障」も含め「新・三本の矢」の取組に貢献するため、創設された交付金。
- ・各自治体が策定した地方版総合戦略に基づく取組について、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な取組を複数年度にわたり安定的・継続的に支援することにより、地方創生の深化を促すもの。
- ・実施に当たっては、具体的な KPI の設定、PDCA サイクルの整備、効果検証が求められており、菊川市総合計画策定委員会において、実施事業について評価をいただく。

2 交付金活用事業の事業評価について

(1)「事業評価書」について

- ・菊川市は平成 30 年度に 2 事業を実施した(補助率 50%)。
- ・交付金を活用した事業について、平成 30 年度事業実績を成果指標等により評価したもの。
- ・議論していただいた内容については、今年度以降の事業実施に活かしていく。

3 菊川市の地方創生推進交付金事業一覧

No	事業名	実績額 (単位:円)			所管課
		事業費	交付金 充当額	市単独費	
1	農学芸スクール事業 Agri Arts & Science School	5,054,400	2,527,200	2,527,200	企画政策課
2	時代を先取る菊川型農業モデルの創出事業	2,046,960	1,023,480	1,023,480	農林課
合計		7,101,360	3,550,680	3,550,680	

No	事業名	所管課
1	農学芸スクール事業 Agri Arts & Science School	企画政策課

1 事業内容

総合戦略上の 位置付け	基本目標	1 抜群な子育て環境で家庭が幸せに暮らせるまち
	基本施策	3 シティプロモーションの実施
事業目的・概要	<p>【事業目的】</p> <p>小・中学生のコミュニケーション力や論理的思考力など「生き抜く力」を育むため、菊川市の主幹産業の一つである農業を軸に学校や家庭では体験できない成長機会を提供する。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標である「地方への新しい人の流れをつくる」ことを目的に、首都圏の親子などに菊川市を第2のふるさととして認知、訪問してもらうため、農業体験や地域住民とのふれあいの場を提供する。</p> <p>【事業概要】</p> <p>①カリキュラムの構築</p> <p>参加児童・生徒の「生き抜く力」を育む仕組みを構築するため、大学教授や教育・農業・流通など各種専門家の協力を得てカリキュラムを策定する。</p> <p>②通常企画の実施（菊川ジュニアビレッジ）</p> <p>市内児童・生徒から希望者を募り、拠点農地を中心とした農業体験、加工や流通を含めた各種学習プログラム、販売体験などを実施する。</p> <p>③特別企画の実施（次世代イノベーター育成塾）</p> <p>主に首都圏在住の児童・生徒親子を対象に、宿泊を伴う農業体験スクールを開催する。実施の際には、参加者に菊川市の魅力が伝わるプログラムを企画する。</p> <p>④法人の立ち上げ準備と広報</p> <p>継続的な人材育成事業とするため、地域で運営する体制を構築するための法人の立ち上げ準備を進める。併せて、事業活動の情報を積極的に首都圏へ発信していく。</p>	
H30 実施内容	<p>①カリキュラムの構築</p> <p>大学教授等専門家の協力を得て、参加児童・生徒の「生き抜く力」や「記号化精神」を育むため構築したカリキュラムの検証や他地点展開等について検討するため、カリキュラム策定委員会を開催した。</p> <p>②通常企画の実施（通称：菊川ジュニアビレッジ）</p> <p>市内等の小中学生 16 人（小学生 4 人、中学生 12 人）が参加し、生産から商品企画、販売まで、年間を通じて一連の農業ビジネスを体験するプログラムを実施した。平成 30 年度は、ハーブ 3 種類（ステビア、レモンバーベナ、パイナップルミント）を栽培・商品化し、菊川産業祭 2018 や浜松科学館で開催された科学フェス、みやたけマルシェに参加し販売した。</p> <p>③特別企画の実施（次世代イノベーター育成塾）</p> <p>9月に衛星などの宇宙技術についての講義や農業分野への応用の説明、ドローンを用いたワークショップを実施する「宇宙技術体験教室」を企画したが、台風の接近により中止となった。</p> <p>1月にキャリア教育についての講演企画を実施した。「将来の夢を実現させるためには」をテーマに、具体的に夢を描いてみたり実際に小道具を使ってビジネスを考えてみたりといったワークショップを行った。</p> <p>④法人化と広報</p> <p>自走化のために、7月5日に法人化を実施。また、HPやFB、報道機関等のメディアを活用し、農学芸スクール事業や菊川の魅力について継続的な広報を実施した。</p>	

2 交付対象事業における重要業績評価指標（KPI）

本事業終了時の指標値に対し平成 30 年度の実績を評価します。なお、難易度、評価凡例については以下の通りです。

- 難易度 低：行政が実施する事業の進捗度合いを示す、比較的コントロールしやすい指標
 中：行政が実施する事業により、ある程度コントロールできる指標
 高：社会・経済情勢に大きく影響され、行政がコントロールできない(非常にしにくい)指標
- 評価 △：難航または課題あり ○：概ね順調 ◎：順調

No	重要業績評価指数	現状値 (H29 年事業開始時)	目標値 (H30)	実績 (H30)	達成状況 (%)	難易度	H30 評価
①	首都圏等で菊川市を知っている人の割合 (%)	63.8	81.2	62.4	76.8	高	△
②	菊川ジュニアビレッジ参加児童・生徒のうち、将来の夢や目標を持っていると回答した児童・生徒の割合 (%)	80.0	100.0	100.0	100.0	中	○
③	事業費全体における自主財源の割合 (%)	0	35.0	31.3	89.4	中	△
④	本事業による生産物販売品目数 (品目)	7	17	18	105.8	中	○

3 事業評価と今後の方向性について

事業評価	<p>指標①について、新聞、テレビ、雑誌、ネット記事への掲載等、また、インターネット生配信番組に部員が出演するなど各メディアに取り上げられ、菊川市・農学芸スクール事業のPRを実施したが、目標値を達成することができなかった。平成 30 年度から関東地方の 2 か所において本事業により構築した教育プログラム（アグリーツ）を展開し始めた。今後も全国に展開を進めることで発祥地として菊川市の知名度向上を図っていく。</p> <p>指標②について、通常企画（菊川ジュニアビレッジ）参加児童・生徒にアンケート調査を実施した。事業開始時（H29.3 月）は 87%であったものが、H30.3 月で 90%、H31.3 月では 100%となり目標を達成することができ、本事業の一定の成果があったと考えられる。</p> <p>指標③については、ハーブティー等で年間約 230 万円の収入があったが、目標達成には至らなかった。法人化した後は、農業ビジネスの自走化（年間活動費で稼げる農業）、特別企画（次世代イノベーター育成塾）の確立、本事業により構築した教育プログラムの多地点展開など、収入源の確保に努める必要がある。</p> <p>指標④については、中学生本気のハーブティー（乾燥葉）3 種類、ギフトセット（3 種）、カップ（冷）、カップ（温）、パイナップルミントの苗を販売した。本年度も販売品目数の増加につなげるため、地域の農業者や商店、加工業者等と連携した商品づくりを進めていく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>通常企画（菊川ジュニアビレッジ）や特別企画（次世代イノベーター育成塾）等の事業実践と検証を行い事業の更なる改善を行うとともに、本事業についてメディアを活用し積極的な広報を実施することで菊川市の知名度向上を図っていく。また、販売収入等の自主財源の確立や事業協力者の確保等を行い、自走化した法人の体制強化を図る。さらには、本事業の他地域での拡大展開を図るため、引き続き、県内の他自治体、東京都、神奈川県等の自治体や企業と話し合いを進め、法人の財源を含めた体制強化を図っていく。</p>

No	事業名	所管課
2	時代を先取る菊川型農業モデルの創出事業	農林課

1 事業内容

総合戦略上の 位置付け	基本目標	3 時代を先取る菊川型農業モデルの創出
	基本施策	1 儲かる次世代農業モデル 2 農業女子が輝ける菊川プロジェクト
事業目的・概要	<p>【事業目的】</p> <p>菊川市の全面積に占める農用地の割合は36.7%（H26年）と周辺市町と比べて高く、過去に基盤整備された農地も多い。このような恵まれた農業環境を生かした、農業で「稼げる」仕組みをつくり、生産者の所得向上や経営安定を確保し、農業を成長産業に導いていく新しい形の農産業ビジョンを創出する「儲かる次世代農業モデルの推進」、また、女性の職業の選択肢に農業を加え、菊川市で就農してもらうための環境整備を進める「農業女子が輝ける菊川プロジェクト」の2つを基本施策とし、時代を先取る菊川型農業モデルを創出する。</p> <p>【事業概要】</p> <p>1 儲かる次世代農業モデルの推進</p> <p>(1) 付加価値の高い農業モデルの創出</p> <p>集約された農地における高付加価値の生産や、地域に眠っている魅力ある農産物の掘り起しとともに、市民農園や加工所等を整備し、地域農業の振興に資する食と農の取り組みの基本モデルの創出を図り、商工、観光をはじめとした企業とタイアップ（協働・協力）し、「農業そのものの価値を上げ、農業＝儲かる」という取り組みを行っていく。</p> <p>①中心（核）となる地域（場所）の創設…栽培圃場や加工所等を企業の賛同・協力を得る中で整備し、生産・販売・6次産業化等に加え、食育やグリーンツーリズム、市民農園などの農業体験を実施するなど、菊川型農業の「顔」として「儲かる農業の場」、「魅せる農業の場」を創設する。推進エリアは、平成27年度に静岡県内陸フロンティア推進区域の指定を受けた「月岡地区、内田地区」を想定する。</p> <p>②モデルとなる法人の設立、地域農業の牽引者の創設…多様な経営形態、異なる品目を栽培する生産者同士が構成する新しいタイプの法人を設立し、生産と加工を軸に「売れる農産物づくり」と「売れる物づくり」を掲げ、グローバル化にも対応した多角的・戦略的な経営や取り組みなどの事業展開を他企業の賛同・協力を得ながら支援する。モデル法人としては、平成28年6月、市内の茶や米、トマト、芽キャベツ、オリーブ、さつまいも等を生産する地元生産者とレタス、枝豆、ブロッコリー等を栽培する農地所有適格法人（農業法人）の代表で設立された「榊つきの丘」を想定し、生産や栽培指導、集荷、加工、販路拡大のための営業や実際の販売まで行う総合会社とする。</p> <p>(2) 農産物のブランド化</p> <p>菊川市の風土や地理的条件に加え、マーケティング調査等をさらに拡充し、生産者の所得に直結する特産物の開発、地域に眠る魅力ある農産物のブランド化を行う。また、開発された特産物の生産体制の確立や販路の確保・拡大の一連の流れについて、商工会や商工業者等の企業と連携し、技術共有や流通コストの削減を図ることで消費の拡大を促し、地域経済の活性化や所得向上に繋がる仕組みを企業の賛同や協力を受けながら構築していく。また、流行やニーズ</p>	

	<p>の移り変わりが早いいため、市場や個人ニーズについては調査を拡充し、取り組む農産物の選定を行っていく。</p> <p>(3) 高収益作物との複合経営モデルの創出</p> <p>菊川市を代表する茶や米の収益は減少傾向を脱却できない状況にあることから農業収支、農業経営の健全化に繋げるため、主幹作物である茶や米の農繁期、農閑期を考慮した栽培が可能であり、かつ、調査済みの市場及び個人ニーズの結果を反映した農産物を生産し、生鮮販売や加工販売を企業の賛同や協力を受けながら展開することで、生産者や加工業者等の確実な所得向上に繋げていく。</p> <p>(4) 耕作放棄地の未然防止</p> <p>県中遠農林事務所や農林技術研究所と連携し、耕作放棄地を未然に防ぎ、茶や米以外の栽培拡大も視野に入れた生産性の高い優良農地を維持・確保するための方策を調査・研究していく。</p> <p>2 農業女子が輝ける菊川プロジェクト</p> <p>(1) アグリ姫プロジェクト</p> <p>静岡県立農林大学校を連携し、女性農業者が菊川市で営農定着し、自立することと、自立した女性の活躍により地域農業が活性化していくことを目的とした支援体制を整える。また、現在市内で活躍する女性農業者たちも含めた活動組織を立ち上げ、ネットワーク構築、情報発信を行い「農業女子が輝くまち菊川市」をアピールすることで、アグリ姫自身が市や市の施策を後押ししてくれる企業の広告等でありブランドとなるような取り組み支援を企業の賛同や協力を得ながら行なう。さらにアグリ姫に対し「㈱つきの丘」が栽培指導、販売指導及び自立に向けた経営指導等に当たり、実際にアグリ姫が栽培した野菜の出荷先としても位置付け、安定栽培と安定収入の確保を実現し、自立に向けた支援を行なう。</p> <p>(2) 女性が働きやすい環境整備</p> <p>女性が農業を始めるにあたっての参入障壁や自立していくための課題等を取り除く手法や施策について民間企業を含めた関係者において検討・実施する。</p>
H30 実施内容	<p>1 儲かる次世代農業モデルの推進</p> <p>(1) 付加価値の高い農業モデルの創出</p> <p>内陸フロンティア推進区域内の交流エリアにおいて、県事業により 2.3ha の農地造成を実施した。また、モデル法人である㈱つきの丘の体制強化に向けた計画を作成した。</p> <p>(2) 農産物のブランド化</p> <p>地域特産物として検討しているそら豆、オリーブ、高麗人参について、栽培方法の確立に向け試験栽培を実施した。ちゃ豆については、昨年度作成した販売用オリジナルパッケージを使用し市内スーパー等でPRイベントを実施した。</p> <p>(3) 高収益作物との複合経営モデルの創出</p> <p>茶園の一部を補完作物に転換した場合における土壌改良に要する経費を補助する制度(農地転換費用軽減支援事業費補助金)を実施し、2.8ha の農地において収益作物への転換を図るとともに、農地転換費用軽減支援事業検討会において効果の検証を行った。また、複合経営モデルの作成を行い、農業者へ周知した。</p> <p>(4) 耕作放棄地の未然防止</p> <p>小規模水田の畦畔除去及び均平作業に要する経費を補助する制度(水田耕作条件改善事業費補助金)を実施し、2.8ha の農地において水田の耕作条件を改善した。</p> <p>2 農業女子が輝ける菊川プロジェクト</p> <p>静岡県立農林大学校職員にも参画いただく中で女性の就農支援における検討会を開催し、女性が農業を始めるにあたっての参入障壁や自立していくための課題等を取り除く手法や施策について検討を行った。平成 29 年度の検討会で出された意見から、市内で活躍する生産者を PR する情報発信を行うため地域おこし協力隊を導入することとし、募集を行ったが採用には至らなかった。また、市内での就農予定の女性に対し、関係者との調整や市内案内などのサポートを実施した。</p>

2 交付対象事業における重要業績評価指標（KPI）

本事業終了時の指標値に対し平成30年度の実績を評価します。なお、難易度、評価凡例については以下の通りです。

- 難易度 低：行政が実施する事業の進捗度合いを示す、比較的コントロールしやすい指標
 中：行政が実施する事業により、ある程度コントロールできる指標
 高：社会・経済情勢に大きく影響され、行政がコントロールできない(非常にしにくい)指標
- 評価 △：難航または課題あり ○：概ね順調 ◎：順調

No	重要業績評価指数	現状値 (H29年事業開始時)	目標値 (H30)	実績 (H30)	達成状況 (%)	難易度	H30 評価
①	儲かる次世代農業モデル法人の首都圏における販売店舗確保数（店舗数）	0	2	2	100.0	高	◎
②	地域特産物の延べ開発数（品目）	0	0	1	—	中	—
③	営農定着した農業女子の人数（人）	0	0	1	—	低	—
④	地域特産物に栽培を切り替えた場合の1反当たりの収入増加額（円）	0	100,000	172,400	172.4	中	◎
農地転換・複合経営支援事業（まち・ひと・しごと創生寄附活用事業）							
⑤	農家所得（農業収入）増加者数（人）※申請後の増加数	0	10	9	90.0	中	○

3 事業評価と今後の方向性について

事業評価	<p>指標①については、都内の百貨店、スーパーでの販路を確保した。今後も販路拡大に努めていく。</p> <p>指標②については、ちゃ豆を市内スーパー等やイベントにおいて販売し、ブランド化を図った。他の特産物についても試験栽培を進め、販売へつなげていく。</p> <p>指標③については、検討会において農業女子への支援策を検討するとともに、市内への就農予定の女性に対し、関係者との調整や市内案内等のサポートを実施した。地域おこし協力隊は採用に至らなかったため、引き続き募集を行っていく。</p> <p>指標④・⑤については、メキャベツやレタスへの転換により収入額が増加した。今後も取り組みを推進することにより農家所得の向上を目指していく。</p>
今後の方向性	<p>「儲かる次世代農業モデルの推進」、「農業女子が輝ける菊川プロジェクト」とともに、引き続き全体計画に基づき事業を推進するとともに、定期的に事業の検証を行い、必要に応じて改善を図っていく。</p>